

山宣碑前祭 盛大に

山宣碑再建・長野山宣会結成50周年記念



長野県版
第500号

2022年10月

治安維持法国賠同盟

長野県本部

〒380-8790
長野市県町593
高校会館内

連絡 竹村利幸方

TEL・026-226-0854

FAX・026-266-0864

今年は、山宣没後93年の年です。したがって山宣の碑が建立され92年。斎藤房雄さんが官憲の弾圧から碑を守り再建されて50年。長野山宣会が結成され50年の節目の碑前祭です。40名の参加のもと、10月16日、盛大に碑前祭が執り行われました。中沢勘介会長はあいさつで、

「今ほど働きかけ、やりがいのある、楽しい時代はない」

共産党副委員長 市田忠義さんが記念講演

山宣の碑前祭集会の記念講演は、共産党副委員長の市田忠義さんが「山宣の生きた時代と現代」と題して行いました。冒頭、市田さんは「山宣」と私は、深いつながり、因縁があった」と切り出しました。共産党の旧洛南地区委員会の責任者としての活動エリヤが伏見区や宇治市等で、山宣の活動基盤と一致多くのことを学び行動したこと。

そして、山宣の生い立ちや学者としての活動内容について触れられ、さらに山宣の住民運動と結んだ国会議員としての活動を熱く語りました。普通選挙法が治安維持法と抱き合わせに成立したのが1925年。28年2月の男子普通選挙制による初の総選挙で、労働党から立候補し当選します。山宣の国会議員としての活動は、それから29年3月5日、右翼の暴漢に虐殺されるまでの1年間という短い期間でした。

今のように新幹線も高速道もない不便な時代、山宣は昼夜を分かたず全国を駆け巡る。虐殺される4日前の3月1日、上小農民組合で演説し夜行で上京。4日には大阪での農民組合全国大会であいさつ。市田さんは山宣になりきって情熱的に語ります。



「国民の中にどんなに矛盾や困難があっても、国民が政治への働きかけをしない限り、自然に解決されることはない。今ほど働きかけがいのある、楽しみのある時代はない」と結びました。

《山宣を熱く語る市田忠義さん》

国賠同盟北陸信越ブロック交流会に参加して

上小更埴支部 斎藤 正徳

今年のブロック交流会は、福井県のあわら温泉で行なわれました。長野県からは8名が参加。中央からは吉田万三新会長・田中事務局長が参加しました。

特別報告の石川県連会長からは「千代子上映は、6会場8回で460名が鑑賞。同盟加入を呼びかけ、28名が次々と入会、200名目標を達成」と感動的な報告もあり、久しぶりの夕食交流会。来年度の長野での再会を誓いあいました。



長野からわたしを含めて8名が参加した。1928年生まれの遠山さんの元気な姿に励まされた。中央本部の吉田万三会長からは「国賠同盟の存在意義」に触れた挨拶があった。

吉田会長は歯科医師で75歳。元東京都足立区長で東京知事選にも立候補した経歴持つ不屈な政治家だった。聞くところによると父親も治安維持法違反で2度検挙されており、新会長としてうつつけの方という印象がした。国賠同盟は治安維持法犠牲者に謝罪と賠償を要求する活動を通じて、「政治のゆがみの根本をただす組織である」という指摘はその通りだと思った。

岸田政権はロシアによるウクライナ4州の併合や北朝鮮によるミサイル発射、中国の覇権主義的行動で、専守防衛を逸脱する敵基地攻撃能力の保有を合理化するなど外交努力なしの軍事一辺倒の姿勢を鮮明にし

《北信越ブロック会議》



ている。戦争と暗黒政治の再来を許してはならない。

会長あいさつでは、次の世代にどう運動をつなげていくか提起された。日本の戦争と戦前の歴史を知らない子どもたちに、命と平和の尊さを伝えていくにはどうしたらよいか。

私は78年前に国体護持の方針のもと構築された「松代大本営地下壕」の案内を通じて、戦争の記憶を継承する活動に取り組んでいる。地下壕を通じて戦争の真相を正しく伝えていく仕事は、命がけで反戦・反権力を貫いた治安維持法犠牲者を語り継いでいく息の長い活動と重なる部分が大きい。

伊藤千代子没後93年 墓参・碑前祭、そしてロケ地ツアー

諏訪・木曾塩尻など県下各地の実行委員会の代表と全国ツアーの参加者30余名は、桂監督や藤田廣登氏らとともに、9月24日〜25日、千代子の墓参と碑前祭を行いました。碑前祭はオンラインで全国にも配信され、木嶋日出夫長野県実行委員長が挨拶。藤森守「千代子こころざしの会」会長によるアピール・「碑前から全国へ」が行われました。その後、マイクロバスで、千代子の生家跡、ロケ地の高島城、諏訪二葉高校、立石公園、そして、映画のクライマックスで千代子の墓標前で「報告と誓い」を述べる舞台となった霧ヶ峰の草原などを訪ね、塩尻泊。

一夜明けて25日、佐藤喜久雄中信実行委員長、祖父江哲歴史の里方イド（国賠同盟員）らの案内で、ロケ地の歴史の里、旧制松高記念館や加助騒動で知られる「貞観義民記念館」、松本求策の歌碑など盛りだくさんの行程を歩きました。全国からの参加者は、疲れ気味ながら大満足で散会しました。

「二・四事件」90周年・プレ集會に参加して

基本的人権は 日本国憲法の神髄

県本部会長 遠山 茂治

来年は「二・四事件」90周年を迎える。そのため、去る10月8日、県教育会館で、そのプレ集會が開かれ、オンライン参加26名を含めて計60名の集會となった。

「現在の人権を問う（日本国憲法と二・四事件）」と題して弁護士の高澤修一さん（長野県弁護士会憲法問題プロジェクトチーム座長）の講演が行われた。先生は6ページにわたる資料をもとに「二・四事件」前後の社会背景、治安維持法公布から日中戦争までを示し、独裁と人権侵害の中で戦争への道を進んでいたのに、多くの国民は全くそのことを認識していなかった。そして、現在はどうだろうかという問題意識の提起をされた後、大日本帝国憲法にはない現憲法の基本的人権の大切さを説かれた。

その大切な現憲法に対して、第3次にわたる安倍内閣及びそれに続く政権が、教育基本法の「改正」にはじまる特定秘密保護法、戦争法、共謀罪法等々の強行採決。さらに、自民党改憲草案にみられる9条2項削除、国防軍創設、緊急事態条項など、戦争へと続く道が敷かれようとしている現状。それを阻止する最大の要素が、憲法が示す基本的人権だが、それは国民の不断の努力により保持されなければならない。再び「二・四事件」を許さないためにも・・・と話を結ばれた。

県内の動き

私ごとで恐縮だが、私はいわば「戦争を知る子どもたち」の世代だが、当時あの戦争が他国を侵略するものだと夢にも思わなかった。真実が報道されなかったと言えればそれまでだが、じゃア、今はどうだろうかという高澤さんの問題提起をつくづく噛み締めたいものだった。

憲法会議・護憲連合など5団体

自衛隊祭に抗議、中止要請を

長野県憲法会議・護憲連合・県労組会議・県労連・県教組の5団体は10月20日、長野県に対し、10月29日に松本駐屯地で行われる「自衛隊祭」並びに米軍機オスプレイの低空飛行訓練を行わないよう、抗議と要請を行いました。

「自衛隊祭」は、2年間コロナ禍で公開されませんでしたが、今年は、高校の書道部がパフォーマンスで参加したり、子どもたちへの軍用車等への試乗が行われることが危惧され、そのようなことのないよう厳しく要請しました。

これに対し、危機管理部長は、要請に一定の理解を示しつつも、県は主催者ではなく招待される側と。また、オスプレイの訓練では、県民の安全確保のため、事前に連絡されることを要請していることなど回答されました。

10月25日松本駐屯司令に要請

前記5団体と松本地区の関連5団体は、10月25日に自衛隊松本駐屯司令に対し、集団的自衛権の容認や戦争法により、自衛隊の役割と本質が根本的に変質したことを踏まえ、自衛隊祭の中止、模擬戦闘訓練展示、試乗は行なわないよう厳重に申し入れることになりました。



《県知事に要請する憲法会議代表等のみなさん》

『戦後の警察官僚』を読む

北部支部 遠山 茂治

告発 戦後の 反動潮流の源泉 柳河瀬精 特高官僚

標題の本が出版された。副題として、「反動潮流の源泉」とし、その肩に「告発」とある。柳河瀬精（ただし）さんの著作だ。柳河瀬さんは、国賠同盟の中央委員長をやられた方で、私が中央常任委だった初めの頃、中央本部で1、2度一緒にいたことがある。物静かな方で、学者タイプ、その後、役員を辞され、私は直接お話ししたことはない。

あとがきによると、機関誌『不屈』大阪版に7年間、連載されたものとのこと。「全貌を見極めたとは言えないが、主な人物についてほぼ網羅できた」と記されている。一読して、人権など全く思うことなく私たちの先輩たちを、時には殺害までして苦しめた特高たちを告発した著作で、正直言って、この本は面白くない。それどころか、全ページにわたり、彼らがいかに巧みに戦犯の網の目をくぐり、犯した罪を覆いかくし、戦後を生きたか、また、生きているかを調べて記録し、告発しているもので、読んでいて息苦しくさえなる著作である。その目次の一部を紹介してみる。

○戦後教育を歪めた者（文部行政への特高官僚の登場）

○戦後警察で暗躍（戦後警察の要職を占める）

本紹介

○公安調査庁（弾圧機関に特高官僚）
○防衛庁の中核は特高官僚

○国の機関の主要ポストに就任（厚生省・労働省・恩給局・人事院・政府付属機関）

そして、更に地方政治や民間でも暗躍、さらには、そんな彼らに勲章等々、もう書くのが嫌になるほど、戦時中に民主的な人々を、役職とは言え、死に追いやるほど、苦しめた彼らが、その後、自分の犯した罪に苦しめられ、ひっそりと生きて来たと思っていたのに、何の何の、悪者同志が手を組んで甘い汁を吸っていた。柳河瀬さんは復旧派に力を与えたのは、アメリカの世界戦略、対日政策の転換に依るものと書かれているが、私は、我々陣営の追求の弱さも指摘しなければならないと思った。とりわけ、我々治安維持法による犠牲者問題を中心課題としている国賠同盟としては、大阪はともかく、全国的に、あまり追求してこなかったことを反省させられる一冊であった。

楽しく元気の出る 長野県高齢者大会

第19回県高齢者大会は、10月22日松本市で開催され、県下各地から140名が参加。コロナ禍や日本高齢者大会の開催県であったため3年ぶりの大会となりました。記念講演は、元県教

組役員のシンガーソングライター

チャー・小山治男さん（写真）

が、切れ味鋭いトークと平和・いのちテーマの情熱的ソングで会場を沸かせ、久しぶりで楽しい、元気の出るつどいとなりました。

